



わら羊 石川清治氏（河北町）作

情報の公開と利用・雑感

主任専門学芸員 加藤 稔

新年早々に、旧臘に刊行された『寒河江市編纂叢書』41集をいただいた。楯北（たてきた）村の江戸後期の「年貢皆済目録（ねんぐ かいさい もくろく）」116年分が採録されている。

年貢の「皆済」目録は、年貢の「割付（わっふ 割合て）」にもとづいて作られた。つまり近世農村で、村が割り合てられた年貢を納めた時、「全納請取（うけとり）」の証拠として、代官が村あてに発行した目録である。

楯北村は、いまの寒河江市丸内（まるのうち）1～3丁目、南町2～3丁目から中央1丁目あたりの地域であった。鎌倉期に大江親広（ちかひろ）が築城し、寒河江大江氏初代とされる8代時氏（ときうじ）が大修築を加え完成した寒河江城本丸跡は、寒河江小学校校地である。二の丸跡南半に江戸期に寒河江陣屋があり、近代には西村山郡役所のち寒河江町役場が設けられていた。楯北村というのは、この城（楯）の北の村である。18世紀前葉には寒河江六郷六ヶ村として、楯北・楯西・楯南・本楯・石川・君田町があった。

『編纂叢書』41集の史料は、大半が、西根宝の斉藤（理久郎）家所蔵文書（もんじょ）である。一部に本館収蔵文書も収録されている。長井政太郎氏

旧蔵文書である。唐突ながら、井上ひさし氏所蔵の『漱石全集』は、19巻1冊だけが合衆国インディアナ州の州立インディアナ大学図書館に入ってしまった事情を思い出してしまった。（井上『本の枕草紙』）

長井氏旧蔵文書の一部は、『山形県史 資料篇』7-9・13巻ほかにも収録されている。氏自身の著作、たとえば『高松村史』、『十里塚村史』等々で分析されてもいる。またH社の『日本歴史地名大系』6巻山形県の地名には、氏の旧蔵文書を利用した記述が散見する。しかし、いわば個人的情報である。理由は、長井氏旧蔵文書の目録が公刊されてなかったことにある。

公的機関の情報として、読解と公刊をされた寒河江市史編纂叢の仕事は、いましばらく続くかともみられるが、その意義は大きい。博物館同士の展示資料の相互貸借や研究成果の交流も、わずかずつ行われているものの、さらに大きな生涯学習機関同士の結びつきは、今後一層拡大することが望ましいのだ。その前提として、収蔵目録の公刊が緊要の課題である。収蔵資料が動き出して始めて、博物館は感動に溢れる。

企画展

新収蔵品展

期間 2月16日(土)～4月14日(日)

この企画展は、本館の収集・整理活動のまとめとして開催するもので、この時期の恒例となっています。次に紹介する資料をはじめとして、各部門から、興味深い貴重な資料が、数多く展示されます。この機会に、ぜひお誘い合わせの上ご観覧下さいませよう、ご案内申し上げます。

【地学】鶴岡市大山層産の貝類化石

鶴岡市大山周辺に分布する大山層は、豊富な貝類化石を含みます。化石は、庄内地域に分布する新第三紀中新世(約2,400～500万年前)のなかで、最初に現れた海の証拠でもあります。時代は中新世中期の初め(約1,500万年前)で、貝類のすんでいた海は、当時アジア大陸の東縁部が引き裂かれて形成されたと考えられている。最初の「日本海」です。

この時代の貝類化石は、日本各地で研究されており、ゲロイナ・テレスコピウム・ピカリアなど、現在の熱帯マングローブ沼にみられるような特徴種を含むことから、日本海が誕生した初期には、南方からの強い暖流が入り、熱帯～亜熱帯的環境になったと考えられます。

大山層の貝類化石は貝殻がほとんど溶けて産しますが、形態はよく残っています。種類は、ピカリアなどもまれに産するほか、カケハタアカガイやイズモユキノアシタガイなどが多産し、中でも他の地域に比べてジュロウジンガイが多産することが特徴的です。

【動物】絶滅鳥エピオルニスの卵(破片)

エピオルニスは200年ほど前に地球上から絶滅してしまった鳥類です。アフリカの東海岸に浮かぶマダガスカル島に生息していて、身長が約3メートル、体重が500キロもあったといわれています。鳥類史上最も重く、飛べない鳥で別名象鳥とも呼ばれていました。

このエピオルニスは原住民や、ヨーロッパ人、アジア人たちの乱獲と開発のため、生息地を追われ、1810年ごろにはまったく姿を見せなくなりました。現存する卵は少なく貴重な資料です。

*****加藤運弥コレクション*****

昨年8月に、山形市印役町の加藤運弥氏より、おし葉標本約5,000点、伝統こけし555点の寄贈がありました。

加藤氏は、明治45年生まれで今年79歳、盛岡高等農林学校を卒業され、県立上山農学校で教鞭をとられました。のち、山形市の農林部長、経済部長などを歴任され、退職後は共同組合山形流通団地専務理事の役職にありました。

長年の職務のかたわら収集されたコレクションの中から、このたびは、

【植物】早池峰山の珍しい植物

(ハヤチネウスユキソウほか)

【民俗】伝統こけし(山形・作並系ほか)

など、よりすぐれた資料を選び抜いて展示しました。

【歴史】山形水野藩士 秋元宰介のこと

アヘン戦争直後の1841(天保12)年5月、老中時代の浜松藩主水野忠邦が、長崎の兵学者高島秋帆に、武蔵野の徳丸原で、高島流砲術の実技と操練を披露させています。

水野忠邦は、高島が江戸に上った際、伊豆韭山の代官江川太郎左衛門とともに、秋元を高島に入門させています。浜松時代の水野藩は、西洋流砲術を重要視していたのです。

山形へ転封された水野藩では、秋元宰介の西洋流砲術を重視する余裕はなかった。しかし、彼の学識と力量は認められていた。1862(文久2)年の『山形水野氏分限帳』には「御槍奉行 御物奉行 秋元天兵衛」と、また1865(元治2)年の『山形水野藩庶士伝後編』には、1865年のこととして「7月 秋元宰介吉順 改革=付先手順、位は先手頭上位、大隊司令士、教頭、教佐・助教輪番持」、「9月 壱番中隊ヲ預る、11月5日 死」とあります。

【教育】師範学校入試問題と「真琴」

大正8年度の山形県師範学校の入学試験問題用紙です。当時の問題用紙は小さな紙片に謄写版印刷されたものでした。受験者は別の答案用紙に答えを書き、その答案用紙だけを提出するので、手元には問題用紙が残りました。

「真琴」は山形県師範学校の、今でいう生徒会誌です。当時は生徒だけで印刷物を発行することはできず、学校全体で発行する学校誌でした。明治38年から昭和19年まで発行された歴史のある雑誌ですが、多くは散逸してしまい、貴重な資料となっています。

資料紹介

修身教科書の挿絵原画

この原画は昨年企画展「教科書ってなんだろう」に出展した国定第四期のものです。

日本の教科書は明治37年から文部省の編集発行したものしか使用できない国定制度になり、この制度は敗戦の昭和22年まで続きました。第四期というのは昭和8年から15年にかけて発行・使用された教科書で「サイタ サイタ サクラガ サイタ」のサクラ読本に代表されます。



完全な軍国主義的内容に変わる第五期に比べると、その傾向はみせながらも大正デモクラシーの影響を受け、こどもの心にうったえかけるすぐれた教科書作りが行われた時代でした。はじめての色刷りの挿絵は子どもだけでなく、大人にも喜ばれ、人びとはその色を心に残しました。

国定教科書では文章・挿絵の作者名は書きません。そのために、戦前の唱歌の作者をめぐって、戦後に争いが起ったこともあります。ところが、この原画には編集・割り付けのためのメモと一緒に作者名が書かれており、一流の画家たちが筆をとっていたことがわかりました。著名な画家の石井柏亭・和田三造や飛田周山・鱒崎英明・渡部審也・平田松堂です。昭和11年のオスローの国際数学会議で絶賛をあげた同期の「尋常小学算術」を描いた多田北鳥もいます。この教科書は、絵だけで描れた画期的な教科書でした。

この期の修身教科書は「尋常小学修身書」といい、原画は巻一の分が1枚、巻二が11枚、巻三が15枚、巻四が7枚、巻六が2枚で巻五の分はありません。その他に何に掲載したかわからないものが7枚あります。これには人物の肖像が多く編

集の段階でカットされたか、他の教科のものか、今後の調査が必要です。

カラーものは11枚ですが同じ絵に色を重ねあわせているものもあり、教科書の出来上りで色刷りになったのは6枚です。淡い色調の美しさがそのまま教科書に刷りあがっており、教科書の挿絵印刷を重視していたことが感じられます。カラー以外のものも、この期以前の挿絵とくらべて気品を感じるの気のせいでしょうか。教訓的でなじみにくい修身の硬い内容も、これらの挿絵を通してこどもたちの心に響いていったのでしょうか。当時この教科書を学んだ年代の人たちが、この挿絵をみて教えられた内容をすぐに答えられるほど文章以上の力をこれらの絵は持っていたようです。



原画は元所蔵者が整理し、B5版の台紙に貼られています。もともとは大きさも紙質もいろいろで、画用紙様の紙や薄紙等が使われています。割り付けの線引・縦横の寸法のほか使用する教科書の巻名・項目名、画家名、着色の有無などがメモされており、下書きではなく印刷寸前の原画と推定しました。

(佐藤陽子)

資料紹介

加藤運弥コレクション

— 植物標本 —

館ニュース 105号に続いて、加藤運弥コレクションの植物標本について紹介しましょう。

加藤氏は、盛岡で学ばれた時から(1930年・昭和5年ころ)ずっと植物採集を続けられ、植物への研究に勤しんでこられました。

このコレクションは、高等植物を中心に約5,000点に及び、しかもその採集地が東北地方全般にわたっていることが特徴です。さらにその他に、満州産の植物もあります。内訳は次の通りです。

	科	種	点
藓苔類		62	75
シダ植物	18	102	223
種子植物			
{ 裸子植物	4	17	50
{ 被子植物			
{ 単子葉	18	460	1,324
{ 双子葉			
{ 離弁	74	685	1,745
{ 合弁	34	502	1,138
満州産			265
計	148	1,828	4,820

このコレクションの中から、加藤氏が特に勢力的に収集された早池峰山(岩手県)の植物について少し述べて見ます。

早池峰山は、珍しい植物の宝庫として有名です。慶応2年(1866)の須川長之助が、ロシアの植物分類学者、マクシモビッチのために行った植物採集が最初で、それ以来数多くの学者が調査し、いろいろな植物があることがわかりました。

本田正次博士と竹中要博士は昭和2年7月に調査し、昭和3年2月に代表的高山帯として国の天然記念物に指定されました。また、昭和32年6月には特別天然記念物にもなったくらいです。

どうして、早池峰山には珍しい植物があるのでしょうか。北村二郎博士は「早池峰の花」の序文でこう述べています。

「それは、この山が秩父古生層の開折高原にそびえ立ち、高さ海拔1,913.6メートルの高山であり、山の上部は蛇紋岩地帯だからである。この山は中生代以後、海中に沈没したことはなく、また岩手山のような火山でもないの、水や灰をかぶることなく、植物が生育し続けることができた。」さらに、「蛇紋岩地帯は特殊な土壌のために(超塩基性岩)、そこに耐えられる種だけが生き残れる。」という訳なのです。

コレクションの中から珍しい種をひろってみましょう。

早池峰固有の種として、ハヤチネウスユキソウ、ナンブトウチソウ、ミヤマヤマブキショウマ、ナンブトラノオがあります。

つぎに、はじめ早池峰固有の種類と考えられたが、その後北上山地の他の場所で確認され、北上固有と考えられるものとして、ヒメコザクラがあります。

さらに、早池峰山を南限とするものとしては、ナガバキタアザミ、ナンブソモソモ、ナンブイヌナズナがあげられるし、本州で唯一ではなくても東北地方で南限となり、早池峰の他に多くても三四ヶ所の産地しか知られないものとしては、サマニヨモギ、ウコンウツギ、チシマフウロがあります。一方、早池峰を北限とするものには、ハリガネカズラがあげられます。

最後に、その他分布的に特異的なものとしては、ミヤマウイキョウ、ミヤマアケボノソウ、チシマアマナなどがあります。これらのコレクションは、今ではほとんど採集ができないものばかりで、とても貴重なものです。(竹村健一)



ハヤチネウスユキソウ



ナンブトラノオ

いんぷおめ〜しょん

平成3年度の主な催し物のご案内をいたします。

特別展 「鳥海 火・花・神」 9月～11月

「出羽富士」とも称される鳥海山にはいろいろな顔があります。その中で「火山」「美しいお花畑を持つ山」「神様の山」という三つの顔にスポットをあて展示します。鳥海山を長年にわたって撮り続けている村岡兼治氏(鶴岡市)のすばらしい写真もあわせて紹介する予定です。



出羽富士鳥海

企画展1 4月～6月

「縄文のタイムカプセルー押出遺跡ー(高島町)」

押出遺跡は、白竜湖畔の湿地に営まれた縄文時代前期のムラであり、発掘調査の結果、国の重要文化財に指定された彩文土器を初め、縄文クッキーや打ち込み柱の平地式住居跡など、すばらしい資料を産出しています。縄文人がいかにか豊かな生活をしていたか想像してみませんか。

企画展2 「野鳥展」 7月～9月

県内で見られる主な野鳥約150種を写真と、はく製で紹介します。「渡り鳥」や「迷鳥」なども展示する予定です。県内の各学校の標本もお借りして大集合!! となります。夏休み期間中ですので、小学生必見の企画展です。

企画展3 「やまがたのおしば展」 12・1月

昨年に引き続き、みなさんから出品していただいた植物画とおしばを紹介いたします。特に小学生の自由研究のおしば作品等大募集いたします。

企画展4 「新収蔵品展」 2月～4月

その年に収集された物を展示するのが新収蔵品展。さて、どんなすばらしい物が集まるでしょうか。

生態学講座 ー山形の自然再発見・最上ー

今年度は、最上地方にズーム・イン!! 最上地方の魅力を紹介します。

- 「山形の植物研究史」 結城嘉美氏
- 「山形の雪」 沼野夏生氏(雪氷防災研究所)
- 「最上地方の動・植物」 大類貞夫氏(真室川小)
- 「演習、県境の山の動・植物の交流」 最上町、花立峠

○「雪と樹木」小島忠三郎氏(元林業試験場分場長)

郷土と歴史講座 ー山形・歴史と人物ー

- 「米沢藩の名君 上杉鷹山」
- 「酒田の〴〵本間さま、本間光丘」
- 「演習 天童藩の勤皇派の重臣 吉田大八」
観月庵、仏向寺、舞鶴山 など
- 「最上の関流算学者 安島直円」
- 「統一山形県初代県令 三島通庸」
乞 御期待

博物館教室(共催 戸沢村) 10月6日

ー戸沢村今神温泉の自然を訪ねてー

親子博物館教室(共催 飯豊少年自然の家)

ー自然を探ろうー 6月8・9日



花立峠から最上町を見る

団子木・団子さし

先日、蔵王成沢郷土史研究会(山形市)の方が訪れ、博物館に団子木(だんごぎ)を飾ってくれました。

かつて、小正月(1月15日)になると各家庭では一年の繁栄を祈って団子木を飾ったそうです。

ミズキの枝にさした赤白の団子は、稲の花や大粒の米と考えて豊作を願う心を表し、また、繭玉(まゆだま)と考えて養蚕の繁栄を願うものとされました。さらに、つり下げた小判・宝舟・エビス様などは「フナセンベイ」と呼ばれ、各種の職業の人々の繁栄も願っているということです。



資料・文献寄贈者紹介

(敬称略 順不同)

〈植物〉 腊葉標本

大高滋 9点、土門尚三11点、舟越順悦10点、
平吹喜久 9点、斎藤正昭 3点、大谷正実 7点、
斎藤清 7点、佐藤恒子 5点、石山美恵子23点、
山田寛爾 7点、佐川昇 9点、加藤信英17点、
鈴木暁10点、小形利吉10点、佐藤滋子15点、
加藤啓吉 1点、吉田道子 1点

〈地学〉

大石雅之(盛岡市)スピリファ

小笠原憲四郎(仙台市)ピカリア、オパキュリナ

〈動物〉

吉村卓三(東京都)エピオルニス卵(破片) 6点

〈民俗〉

奥津勝次(河北町)ジンベ・ナタギリ

〈教育〉

丹生恭治(山形市)復刻国定修身教科書 32点

押切清夫(尾花沢市)手習い草紙他 4点

田中新治(山形市)雑誌「教育」他 50点

阿部 彰(吹田市)戦中教育映画ビデオ 1点

佐藤浩平(天童市)王様クレヨン 1点

役末勝英(山形市)戦中少年雑誌付録 1点

後藤孝夫(山形市)師範学校入試問題他 41点

長谷 勲(山形市)最上流定位ノ法 1点

木保 繁(山形市)動物教材の根本的研究 1点

栗田幸助(山形市)嚶鳴館遺草他 5点

石島庸男(山形市)県出身教育学者著作他 30点

中村新三(名古屋市)明治～昭和の教科書 32点

小関美紀子(山形市)明治期中等教科書他 12点

〈文献〉

平瀬正吾・鈴木 暁・早坂公夫・濱田宗一・田宮
文平・小形利吉・船橋順一・加藤忠一・佐藤苔石
渡辺智子・阿部和雄・飯田豊明・佐藤幸廣・黒沼
光翁・内山 多・木俣 繁・長岡仙一・鈴木和吉
本間又右衛門・鳥兎沼宏之・土田茂範・永松 敦
前山 博・村岡謙治・徳永幾久・加藤連弥・石島
庸男

齋藤茂吉記念館・上杉博物館・致道博物館・旧東
村山郡役所資料館・中山町立歴史民俗資料館・山
形郷土史研究協議会・山形昆虫同好会・長井植物
愛好会・家根合部落会・東一番町町内会・山形市
観光協会・米沢史学会・玉東柔道愛好会・山形史

—ありがとうございました。—

学研究会・大和地区地域づくり推進会議・誌趣会
山形応用地学研究会・新庄市立図書館
山形第一小学校・山形第二小学校・山形第三小学
校・山形第四小学校・山形第五小学校、山形第七
小学校・山形第八小学校・山形第九小学校・村木
沢小学校・天童中部小学校・田麦野小学校・二井
宿小学校・村山市西郷小学校・西川町西山小学校
富本小学校・南平田小学校・山大附属小学校・山
形第一中学校・山形第六中学校・陵南中学校・天
童第一中学校・天童第二中学校・真室川高等学校
天童高等学校・米沢東高等学校・山形中央高等学
校・長井高等学校・山形北高等学校・谷地高等学
校・寒河江工業高等学校・山形西高等学校・山形
市立商業高等学校・山本学園高等学校・酒田中央
高等学校・県立ゆきわり養護学校・県立山形聾学
校・県立山形盲学校・山形大学・山大附属博物館
山大教育学部同窓会・山大教育学部30周年記念実
行委員会・県立米沢女子短期大学・山形女子短期
大学・山高、山大山岳部同窓会コーボルト会・最
上地区中学校長会・天童東村山地区小中学校長会
同地区教育委員会協議会・北村山地区中学校長会
山形県中学校長会・山形市小学校長会・山形市中
学校長会・東置賜地区小中連合校長会・県退職校
長会最上支部・山形県高等学校長会・山形県私立
学校総連合会・県高等学校体育連盟・県高等学校
定時制通信制教育振興会・山形市中学校教育研究
会数学部会・最上地区教育研究会僻地部会・県へ
き地教育研究会・県言語治療教育研究会・県小学
校教育研究会理科部会・県高等学校教育研究会・
県高等学校図書館部会司書専門部会・県高等学
校教育研究会理科部会・山形県教育用品株式会社・
山形しあわせ銀行教育振興基金
山形地方气象台・新庄市・中山町・高島町・余目
町・村山市・天童市・米沢市・南陽市・山形市・
山形市議会・山形市教育委員会・山形市少年自然
の家・新庄市教育委員会・長井市教育委員会・飯
豊町教育委員会・南陽市史編さん委員会・朝日町
教育委員会・寒河江市教育委員会・東根市史編集
委員会・大石田町教育委員会・金山町教育委員会
立川町教育委員会・米沢市教育委員会・西川町教
育委員会・八幡町教育委員会 他・県外多数の博
物館、教育委員会、大学等・県各行政機関

山形県立博物館ニュース 第106号

平成3年2月20日発行

山形県立博物館 〒990 山形市霞城町1番8号 TEL0236(45)1111
山形県立博物館教育資料館 〒990 山形市緑町二丁目2番8号 TEL0236(42)4397